



NEWS LETTER

ミミズコンポストから学ぶ ごみ削減と自然のしくみ

小学校でミミズを使った堆肥づくり「ミミズコンポスト」の導入ワークショップを実施しました。チリは家庭ごみを占める重量の約6割が生ごみといわれているため、この生ごみを各家庭で堆肥に変えることができれば、大きなごみ削減につながります。また、この地域では家庭菜園をしている世帯も多く、できあがった堆肥をそのまま畑や花壇に利用できるという実用面でのメリットも大きいです。こうした背景から、ミミズコンポストの普及推進は、地域住民にとっても意義のある取り組みだと思えます。



ミミズコンポスト専用容器。一般的な微生物を使ったものに比べて、悪臭が出にくく、分解のスピードが早いのが特徴です。

環境教育としてのコンポスト



私自身、ミミズコンポストを行うのは今回が初めてのことでした。以前は「コンポスト」と聞くと少し難しそうな印象を持っていましたが、実際にやってみると意外とシンプルで、楽しく取り組めるものです。そして自然の循環の仕組みを実際に体験しながら学べる教材という点でも、コンポストはとても優れていると感じます。

ワークショップ内では、職場の同僚とともに「ミミズが食べるもの・食べないもの」や「日々の管理のコツ」について子供たちに説明しました。後半には実際にミミズに触れる時間を設け、最初はおそるおそるだった子どもたちも、次第に興味を示し、積極的な姿勢を見せてくれました。見た目から敬遠されがちなミミズですが、子どもたちが目で見て、手で触れるこの体験は、きっと彼らの心に残るものになるはずです。ワークショップを通して、子どもたちや先生方がコンポストに興味、反応を示してくれたことを嬉しく思います。